

## ステンレスを鑄造する(1)

アート

上野原テクノパークにある九州タブチは水道管ジョイントを製造している業界では有名な企業と聞いていた。そこで、ブロンズ鑄造におけるトラブルについて相談してみようと以前から知る社長の鶴ヶ野末央さんに連絡を取り、御好意に甘えて訪問させていただいた。そこでは盛満裕造部長が対応してくださった。

鑄造用耐熱石膏を使用する美術鑄造の一点物の鑄造と違い大量生産に心えられる材料で鑄型を作るため、自分の求める答えがすぐに見つかるわけではなかった。しかしそこで口ストワックスによるステンレス鑄造が行われており、小さな彫刻ならば鑄造できるということを知った。本来、需要の少ない美術品だから会社には迷惑であろうことを感じつつ係の坂元孝さんや盛満部長の親切な対応でステンレス鑄造を経験させてもらえた。(写真)

今回の制作経験を通して思ったことは、巨大な圧力釜がなければステンレスはつくれないし、これが高価な(約一千万円らしい)品物なので、個人で買うにはちょっと無理。他に

つぼや巨大電気窯を使って安全に作業できる環境はこの会社の規模だからこそできうるものだ。ホイスト(巨大クレーン)を導入して重量物をより安全に運び、鑄造過程で美術鑄造専門員を育成すると、一点物の複雑な形の大型美術品鑄造も可能だろう。

ステンレスはブロンズよりも耐久性がある。そして形としてはわかりやすい美しさがモニユメントとして向いている。全国からの相談・依頼は殺到するのではないだろうか。とはいえ多くの従業員の利益優先が大前提の企業に対して無責任な夢想家が勝手なことを言っても失礼な話。

世界的に見ても現代的なステンレス具象彫刻を見かけないのはそれを鑄造できる大型施設設備が日本に無いかからだ。いつか、人々がステンレス鑄造作品の良さを知る時代がきて、華やかな女性像や躍動的な男性像を公園や駅の広場に生命感ある美しいステンレス鑄造作品で飾れたら、日本から世界に向けてもっと魅力を発信する時が来ると思うのだが。

日展会員 第一幼児教育短期大学 教授



大理石の台座をつけて、鹿児島市の山形屋で7月22日まで展示発表した。



鑄型を割り出した後、再度1060度まで加熱して急激に水に浸けて冷やすことで錆にくいステンレス製になる。その時、表面は黒いが、その後研いで光沢を出していく。右猫は光沢を出す前。



猫の鑄型にステンレス湯を鑄込んだ直後の風景。鑄型まで赤くなるが壊れない。